チーフ・プロデューサーに聞く　こうして生まれた連続テレビ小説「スカーレット」

NHK大阪放送局のチーフ・プロデューサー内田ゆきさんに、「スカーレット」誕生秘話を伺いました。

焼き物の奥深さと熱く生きる女性像がぴったり

連続テレビ小説の題材を考えるにあたり決まっていたのは、西日本を舞台とした、女性の成長する物語ということだけでした。私を含め、演出も作家も女性であり、自分の手で何かを生み出すヒロインにしたいという思いがありました。そんなとき、ある書籍で信楽焼に出合いました。芸術としてだけでなく、産業としての側面もあり、取材を重ねるうちに信楽という土地にも魅力を感じ、ぜひここでドラマを作りたいと思うようになりました。

焼き物は手から土に伝わって形になり、焼いてみて分かるワクワク感があります。自分と向き合う陶芸は、職業としての奥深さもあり、描きたい女性像にもしっくりきました。

タイトルはかなり悩み、ヒロインの熱い生き方である「炎」を表す言葉をいくつも探しました。英語で炎の意味合いを持ち、土と取り組むことにプラスして、情熱と華やかさも感じられる「スカーレット」はチームの旗印としてもぴったりで気に入っています。

舞台地との一体感がドラマの成功につながる

取材でまちを歩いてみましたが、甲賀市には自然が豊かというだけではない、情緒や独特の雰囲気がありますね。一方で昭和とは異なる現在の佇まいがあり、当初ここでの撮影は難しいと思いましたが、地元の皆さんに温かく迎えていただき、取材からロケまで親身になってご協力いただいたおかげで予想以上のシーンを甲賀市で撮影することができ、感動しています。

長い期間、地元と結びついて一緒にできるのは〝朝ドラ〟だからこそで、舞台地との一体感がドラマの成功につながると信じています。「スカーレット」をきっかけに訪れる方が増えるのはうれしいことですね。

ドラマで描かれる陶芸と主人公の成長にご期待ください

〝朝ドラ〟で陶芸がテーマとなるのは今回が初めてです。陶芸は、どんな焼き上がりになるかわからないけれど、思い通りにならなくても失敗とはいえないという点で、人生のいろんな出来事に似ています。ドラマには陶芸に携わる多くの人が登場し、焼き物の制作工程や火鉢の生産が盛んだった頃の信楽も知ってもらえると思います。

主人公の喜美子は、自分だけではなく、人のために動き、周りの人を愛し、愛され、陶芸とともに成長していきます。友達や家族、夫婦、いずれは子どもといった周りの人々との関係の中で生み出される悩みや喜びを丁寧に描いていきますので、ご期待ください。

連続テレビ小説　『スカーレット』

- **放送予定**　2019年9月30日(月)～2020年3月28日(土)全150回
  毎週(月)～(土)　NHK総合　午前8:00～8:15ほか
- **作**　水橋文美江　　**音楽**　冬野ユミ
- **出演**　戸田恵梨香、北村一輝、富田靖子、大島優子、林遣都、佐藤隆太　ほか
- **物語**　連続テレビ小説101作目は、究極の働き女子。焼き物の里・信楽を舞台に、女性陶芸家の波乱万丈な人生を描きます。自分のため、大切な人のため、行動あるのみ！モノを作り出す情熱と喜びを糧に、がむしゃらな強さと天性の明るさで、懸命に創り、育て、働く女性のオリジナルストーリー。

こうかトピックス 1

自然環境を守るために
～エコチャリティゴルフコンペ～

原田伸郎（はらだのぶろう）さんのエコチャリティゴルフコンペ「第17回ノブリンカップ」が7月22日、ダイヤモンド滋賀カントリークラブで開催され、参加者ならびに主催者の皆さんから100万円のご寄付をいただきました。

このコンペは、毎年「緑と水を守ろう」を合言葉に、琵琶湖の源流であるこの地を守ることや、地元の青少年の健全な育成を支援するために開催されています。

いただいたご寄付は、子どもたちの環境教育のために、大切に使わせていただきます。

▲原田さん（右）から目録を受け取った岩永市長

問合せ　社会教育スポーツ課　文化係
☎69-2247　FAX 69-2293

こうかトピックス 2

車窓から「タボくん」
～うしかい田んぼアート～

水口町牛飼の水田では、稲穂の実りとともに田んぼアートが完成し、見ごろを迎えています。

この田んぼアートは、信楽高原鐵道の車窓から見ることができます。貴生川駅から出発して、約3分後、進行方向左手の水田に、草津市で開催される音楽イベント「イナズマロックフェス」のキャラクター「タボくん」が現れます。

見ごろは、10月13日に行われる稲刈りまでです。ぜひ、信楽高原鐵道に乗って、田んぼアートをお楽しみください。

▲車窓から見える「タボくん」

問合せ　甲賀市観光協会
☎60-2690　FAX 60-2362

こうかトピックス 3

折り鶴に平和への願いを込めて
～広島平和記念事業に市内小学生28人が参加～

8月5日・6日の2日間にわたって開催した広島平和記念事業に市内小学校6年生28人が参加しました。

この事業は平和記念式典への参列や平和学習を通して、戦争の悲惨さ、無益さ、原爆の恐ろしさ、そして平和の尊さを学んでもらうために毎年開催しています。

ここでは、参加児童の感じた「平和への願い」を感想文（抜粋）から紹介します。

原爆は、人々を苦しませる物だから争いなどは無くなって平和な世の中になってほしいと改めて思いました。このように大きな被害が出る、大切な人を失ってしまい、心に傷が残ってしまうほど原爆は、恐ろしく、怖いものです。
（1班　嶋川萌々果（しまかわももか）さん）

この二日間で原爆の恐ろしさを学んで、人々が幸せなことが平和ということではないかと思いました。また、友達や家族にこのことを伝えて、いっしょに平和について考えたいと思いました。
（2班　古谷優斗（ふるたにゆうと）さん）

八月六日、僕は広島でみんなと一緒に心から平和を祈りました。みんなの祈りが天国の犠牲者の方にとどきますように。
（3班　田中悠嗣（たなかゆうし）さん）

平和への誓いから「ありがとう」や「ごめんね」の言葉で認め合い許し合うこと、相手を知り、違いを理解しようと努力すること。自分の周りを平和にすること。これが今僕ができることだと学びました。
（4班　鋒山修吾（ほこやましゅうご）さん）

「原爆の子の像」の前に集合した参加児童▶

問合せ　総務課　総務統計係
☎69-2260　FAX 63-4086